

春休み福島の子ども保養プロジェクト in 神奈川

福島県の子ども34名が神奈川県へ

2012年3月30日(金)～4月2日(月)にわたり、福島の子どもたちに短期間でも安心して過ごせる環境を提供する試み「春休み子ども保養プロジェクト in 神奈川」が実施されました。この取り組みは「守りたい・子ども未来プロジェクト」が主催。神奈川県ユニセフ協会、福島県生活協同組合連合会、福島県ユニセフ協会が共催。協力団体として、神奈川県生活協同組合連合会、コープかながわ、秦野市観光協会、秦野市農業協同組合などが名を連ねました。また、後援として秦野市が入っています。

これまでの各地で実施されてきた保養プロジェクトは、福島県生協連、福島大学災害復興研究所、福島県ユニセフ協会が協力し、各県の生協、ユニセフに対し生協連とユニセフが支援を要請していく形で行われてきました。今回は要請に対し、神奈川県生協連と神奈川県ユニセフ協会が応えたもの。県連は主に県内関係団体への声かけ、県ユニセフはボランティアの人員をそろえ、声かけに応え協力を手を挙げてくれた関係団体と話し合いながらプログラムの詳細を詰め、当日の仕切りのほぼ全般を担当していました。

今回参加した子どもは、福島市、郡山市、本宮市、いわき市からの男子12名、女子22名の計34名。5名の保護者の方も同行。また、郡山市と二本松市に住む短大生のボランティア2名、さらに福島市の臨床心理士の成井香苗さん(福島県ユニセフ)が1日朝まで同行しサポートしました。

30日、朝8時に福島駅を発った参加者は、横浜中華街などに立ち寄り、16時30分に表丹沢野外活動センターに到着。オリエンテーションで子どもたちを6つのグループに分け、各グループを担当する神奈川側のボランティアがリーダーとして紹介されました。

17時からウェルカムパーティーがスタート。子どもたちはテーブルいっぱいを用意された料理を自分でお皿に取り分け食べていました。食事が一段落すると、参加者の自己紹介を兼ねたJAはだの腹話術サークルによる余興も。さらに、コープかながわ、パルシステム神奈川ゆめコープ、秦野市に工場のある不二家からお菓子など、秦野市水道局からペットボトル入り飲料水のプレゼントがあったことが、参加者に紹介されました。初日の緊張と長いバス移動の疲れもあって表情の固い子どもたちもいましたが、おおむね子どもたちは元気。食事が終わると各自の部屋に分かれて元気一杯に遊んでいました。



ボランティアが心をこめて調理した料理を堪能する子どもたち。

パーティーの片付けが終わると、ボランティアの方々は薬を飲む必要がある子どもの薬を飲ませたり、子どもをお風呂に入れたりと大忙し。その後 22 時半ぐらいから全員が集まってミーティングを実施。各グループのリーダーが子どもたちを見ていて気づいたことを話し、全員がこれからの生活の注意点として情報をシェアしていました。話し合いは非常に細やかで「“おねしょ”した子どもが出たら、傷つかないような対処を」といったところまで申し合わせていました。また、夜は 1 時と 4 時、2 度の見回りを実施。子どもたちを“宿泊”させる催しにおけるボランティアへの負荷の大きさは非常に大きく、現場の最前線での頑張りが、取り組みの実現には不可欠なのだと痛感させられました。

ラジオ体操やいちご狩りを実施

31 日朝は 6 時半に起床。夜から雨が降り始めていましたが、起床する頃には一時的に上がったのでラジオ体操を宿舎の前のグラウンドで実施。しかし朝食をとっている間に再び雨が降りだしたため、この日の午後予定されていた戸川公園での外遊びはキャンセルになりました。ただ、午前中に予定していたいちご狩りはビニールハウス内で行うもののため決行。一同はバスに乗り込むと秦野市内の石田ファーム工房いちご狩り園へ。地域でも有名なこの観光農園は農協や市の農政課などを通じ紹介していただいたとのこと。



31 日の朝、雨が上がったのでラジオ体操は前庭で実施した。

ハウスに入ると農場主の石田さんよりおいしいいちごの見分け方や、正しいもぎ方などの説明。それが終わると子どもたちは一斉にいちごをもぎ始めます。「ミルクなしでも十分甘い!」と、大喜びしながらいちごを堪能していました。おいしいものを食べた後の素直な笑顔に農場主の石田さんも「うれしいですね」と笑顔。いちごを食べ終わると、次は外遊びの代わりに伊勢原市立子ども科学館へ。体を動かしたりゲームを楽しみながら、科学(理科)を学べる展示を、子どもたちは存分に楽しんでいました。ここの休憩室で昼食を食べると、秦野市鶴巻温泉弘法の里湯に入り、16 時頃野外活動センターへ戻りました。少しはやめの帰りでしたが子どもたちは、思い思いに部屋遊びを楽しんでいました。

この日の夕食はカレー。日本、エチオピア、インド、モルディブと世界の 4 種類のカレーを食べ比べてもらおうという企画でした。調理には日頃からユニセフのボランティアとして活動しかつコープかながわの組合員でもある方々が参加。

夕食後は曇り空のため中止となった天体観測の代わりに野外活動センターのスタッフの方がプロジェクタを使い星や月、宇宙についてのお話をし、希望者が参加していました。

終電が近づき参加できませんでしたが、子どもたちに寝る準備を済ませさせたスタッフの方々は、21時30分から福島からいらした保護者の方、ボランティアの方々の参加を募り、神奈川側の支援者に福島の現状を話していただく“交流会”を行ったそうです。